

セックスを極め自らの体をいたわる母たち 興味は下着
に注がれ、大人の息子にも下着をプレゼント

母のサエは、下唇に指を当て息子のユウジに似合う下着を探していた。

自家用車で少し遠出をしてサエが出かけているのは下着専門店。日曜の晴れ
の午後。

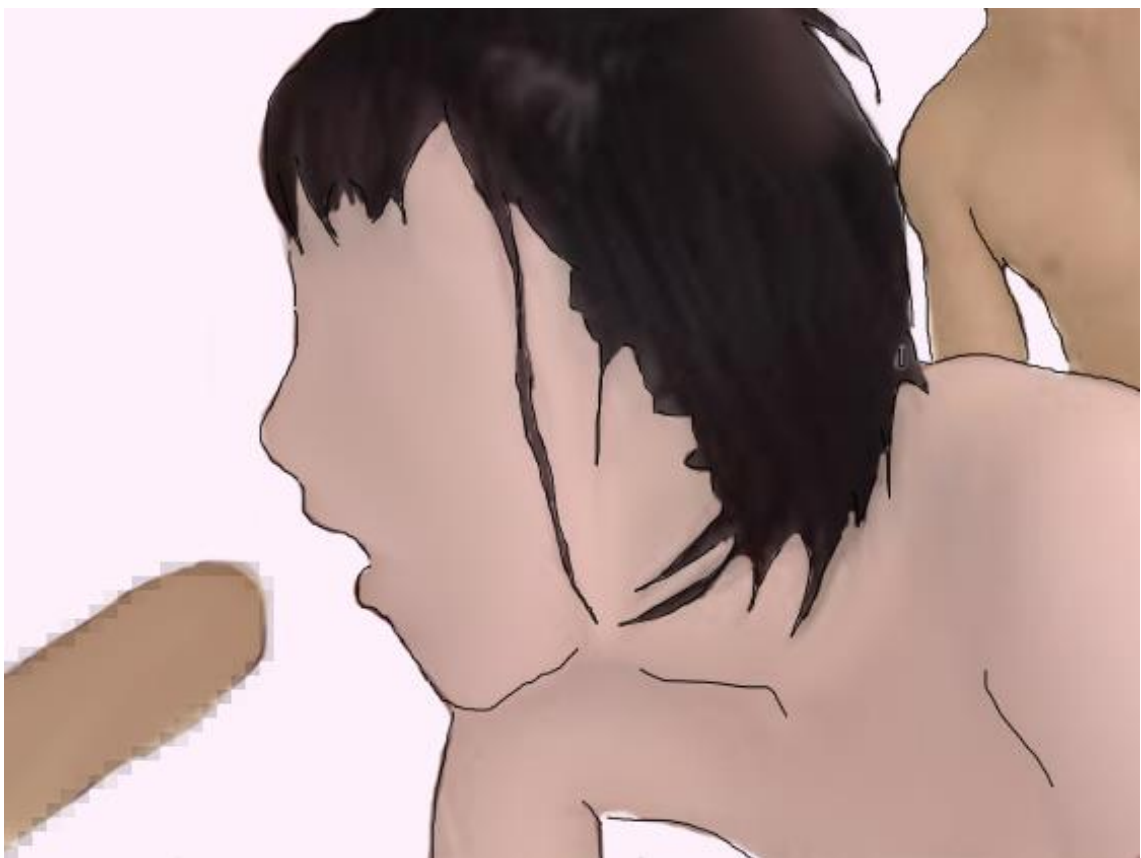
店には下着だけでなくペニスの形を矯正、整えるシリコンリングなども揃っ
ている。

「いいわねこれ」

男性器増大器具を見てサエは舌なめずりする。ペロっと舌が唇にケーキ屋のキャラクターのように出る。

「男性のペニスは大きくなってもらわなきゃ」

毎晩朝までセックスしている相手のスナックの若い男性店主を思い浮かべた。



「おちんぼってやっぱり美味しいものだから。女性にとっては食べものなの
よね」

この店も、とにかくセックスを極めるために作られた下着店だ。

どれだけいやらしくなれるか・・・。

「ユウジに似合うパンツってどれだろう・・・」

気は弾み、だけどいたって真剣な眼差し。

このところペニスが急成長し歯止めがきかなくなり、急激に大人になるユウジを見てサエはユウジの過去の下着を全て交換しようと思論っていたのだ。

息子は大人になったのよ。パンツも全部変えなきゃダメなの。

一方、その頃ユウジは下着がなくて大慌て。学校へ穿いていかななくてはならないのにパニックになっていた。

サエが全てゴミ箱へ捨てたのだ。

「どこへ行ったんだ？タンスにしまってたの全部無くなってる！！」

部屋の中であたふたするユウジ。

「仕方ない、今日はズボンの中はおちんちんだけだぞ・・・」

仕方なくユウジは学校の鞆を持ってドアを開ける。

圧をかけて大きさを閉じ込める下着がなくなり、ユウジのズボンはもっこりが否めない。

パンツを捨てた犯人は一番身近にいる存在だったことをユウジは知らなかった・・・。

————— 体験版は以上になります。 —————